

ロシア極東との交流推進プロジェクト

【推進エリア】道北連携地域（上川地域、留萌地域、宗谷地域）

【主な実施主体】国・道・市町村・民間

目 的

道北連携地域は、宗谷海峡を隔てて国境を接し、歴史的にもつながりが深いロシア連邦サハリン州を始め、ロシア極東地域と地理的に近い位置にあり、これまでも文化、スポーツ、観光などの分野において市町村や民間団体などによる友好交流が行われています。

また、近年は道北地域が連携し、ビジネスマッチングのためのサハリンのバイヤーの招へいや「ユジノサハリンスク道北物産展」を開催するなど経済交流の取組を進めています。

道北連携地域では、グローバル化の潮流を捉え、人口減少に伴う域内需要の減少に対応するためにも、これまで築いてきた友好関係や地理的優位性を活かしたロシア極東地域との経済交流をより一層推進し、地域経済の活性化を図ります。

施策展開

- 【施策】 ■ サハリン州等との友好交流の推進
■ ロシア極東との物流の活性化など経済交流の推進

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

○北海道からロシアへの道産食品の輸出額

454 百万円 (R1) → 726 百万円 (R7)

〈施策毎の主な取組方向〉

■ サハリン州等との友好交流の推進

- 姉妹都市との交流事業の実施
- 文化・スポーツ交流事業の実施

道北地域の特徴

○道北地域とサハリン州は、地理的近接性や歴史的な経緯から様々な交流を実施。

主な取組

- オンライン等も活用した青少年や職員の交流
- 文化・スポーツ交流の実施

めざす姿

- 多文化共生や国際理解の促進
- 交流人口の拡大

交流自治体

道 北：稚内市、猿払村、天塩町、旭川市、名寄市、剣淵町、東川町

サハリン州：ユジノサハリンスク市、ネベリンスク市、コルサコフ市、オジオールスキ村、トマリ市、ドーリンスク市、アニワ市

■ ロシア極東との物流の活性化など経済交流の推進

- 道産品の販路拡大に向けた取組の実施
- ロシア極東地域への道北地域の魅力発信

◇ サハリンをはじめとした
ロシア極東地域への道北産品の輸出
(サハリンで開催される物産展の活用等)

◆ ホームページ、ガイドブックなど観光ツール
を活用した道北地域の魅力発信

○道北産品の海外輸出の促進 ○稚内港や留萌港の活用 ○観光客増による関連産業の振興

関連する主な基盤整備

- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
 - ・空港・港湾などの物流拠点へのアクセス道路の整備
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・外国人のための外国語標記の案内板などの整備

天塩川ブランド力向上プロジェクト

【推進エリア】道北連携地域（上川地域、留萌地域、宗谷地域）

【主な実施主体】国、道、市町村、民間

目 的

天塩川周辺地域は、天塩岳にはじまり音威子府溪谷などを経て、河口域に広がるサロベツ原野に至る豊かな自然や美しい景観があります。

天塩川は、幕末の探検家「松浦武四郎」による「北海道」命名の地とされ、流域は貴重な野鳥であるオオワシの越冬地やオジロワシの繁殖地などの重要な拠点であるとともに、河口から遡ること約157kmの間に人工の横断工作物が無く、その距離は日本一であることから日本有数のカヌー適地として知られており、平成16年には北海道遺産に選定されています。

この地域では、上流部の豊富な森林資源を活用した林業や、上・中流域の肥沃な農地に支えられた稲作・畑作が営まれ、下流域には大規模な酪農地帯が広がっており、さらに、河口近くでは、サケ・マス漁が盛んに行われているほか、環境変化等で減少したシジミ資源の回復に取り組んでいます。

しかし、こうした様々な魅力ある地域資源があるものの、都市部から離れていることや知名度の低さから、観光客やイベント集客数が低い状況にあり、地域全体で天塩川の恵みを再認識し、そこを基軸とした広域連携の取組を強化し、情報を発信していくことが必要です。

このため、この地域の美しい景観や川の恵みを活かした「食」、「自然豊かな住環境」等を道内外に発信することにより、「天塩川」の価値をさらに高め、天塩川周辺地域の交流・関係人口の創出・拡大に向けた取組を推進します。

施策展開

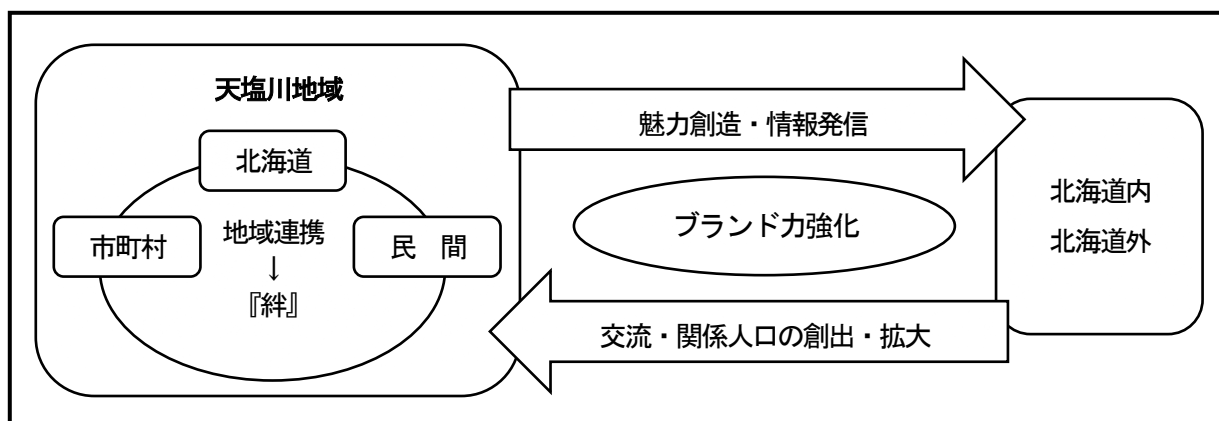
- 【施策】**
- 地域連携による絆の強化
 - 魅力創造・情報発信によるブランド力の強化

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

○地域おこし協力隊員数（天塩川周辺地域）	54人(R1)	→	78人(R7)
〔内訳〕			
上川	38人(R1)	→	55人(R7)
留萌	5人(R1)	→	7人(R7)
宗谷	11人(R1)	→	16人(R7)
○観光入込客数（天塩川周辺地域）	306万人(R1)	→	340万人(R7)
〔内訳〕			
上川	225万人(R1)	→	250万人(R7)
留萌	44万人(R1)	→	49万人(R7)
宗谷	37万人(R1)	→	41万人(R7)

〈施策毎の主な取組方向〉

- 地域連携による絆の強化
 - 天塩川の恵みの再認識
 - 地域連携の強化
- 魅力創造・情報発信によるブランド力の強化
 - 環境や地域資源を活かした地域づくり
 - SNS※等を活用した情報の発信



関連する主な基盤整備

- 高規格道路の整備
 - ・高規格道路[※]の整備促進
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
 - ・良好な水辺環境の保全・創出を推進

上川の地域産業を支える担い手育成・確保プロジェクト

【推進エリア】上川地域

【主な実施主体】国・道・市町村・民間・教育機関

目 的

上川地域においても今後、人口減少を迎える中、農林業や商工業など地域経済を支える産業の担い手や後継者の不足が懸念されており、その対策が必要となっています。

このため、上川地域の魅力や産業・雇用などの情報を広く発信し、若年層をはじめとする現役世代の移住・定住を促進するほか、農林業の担い手の育成や確保、地域連携による人材確保等の取組の推進など、今後の人口減少社会を見据えた地域産業の担い手・後継者対策を進めていきます。

施策展開

- 【施策】
- 農林業の担い手育成・確保に向けた取組の推進
 - 地域連携による人材確保等の取組の推進
 - 担い手確保に向けた移住の促進及び関係人口の創出・拡大

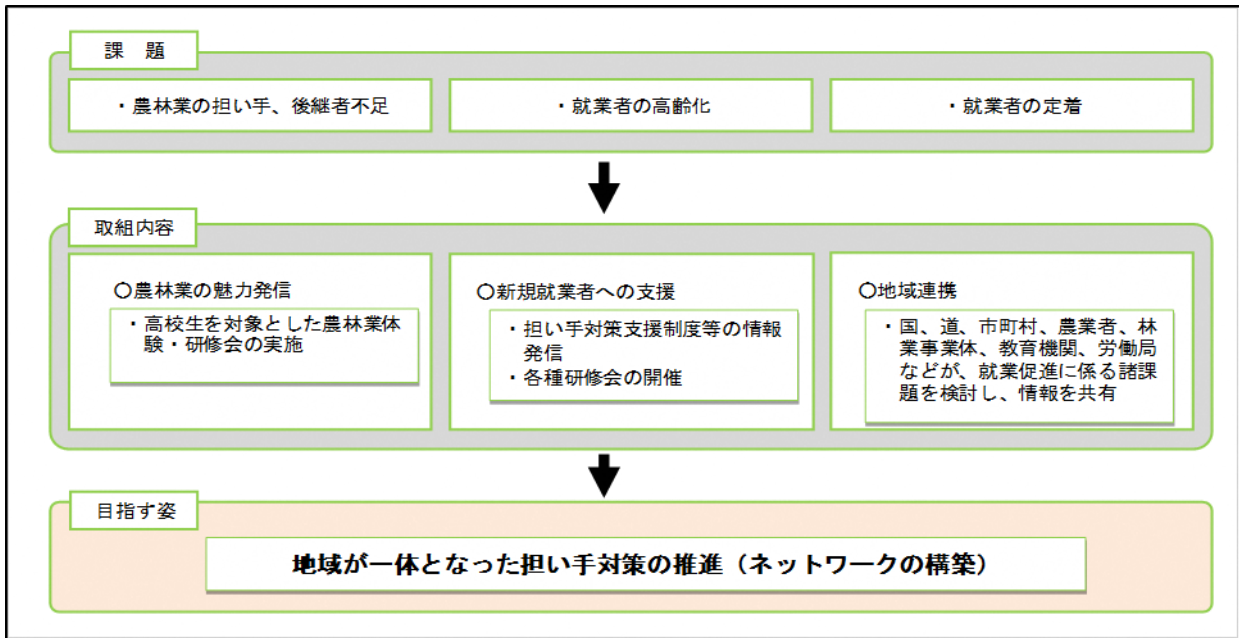
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

○地域産業への新規就業者数	農 業	106 人 (R1)	→	123 人 (R6)
	林 業	27 人 (H29)	→	30 人 (R6)
○管内新規高卒者の就職者に占める管内就職の割合	72.2% (R2)	→	75.0% (R7)	
○テレワーク施設等を利用してワーケーションを行った人数	642 人 (R2)	→	4,494 人 (R7)	

<施策毎の主な取組方向>

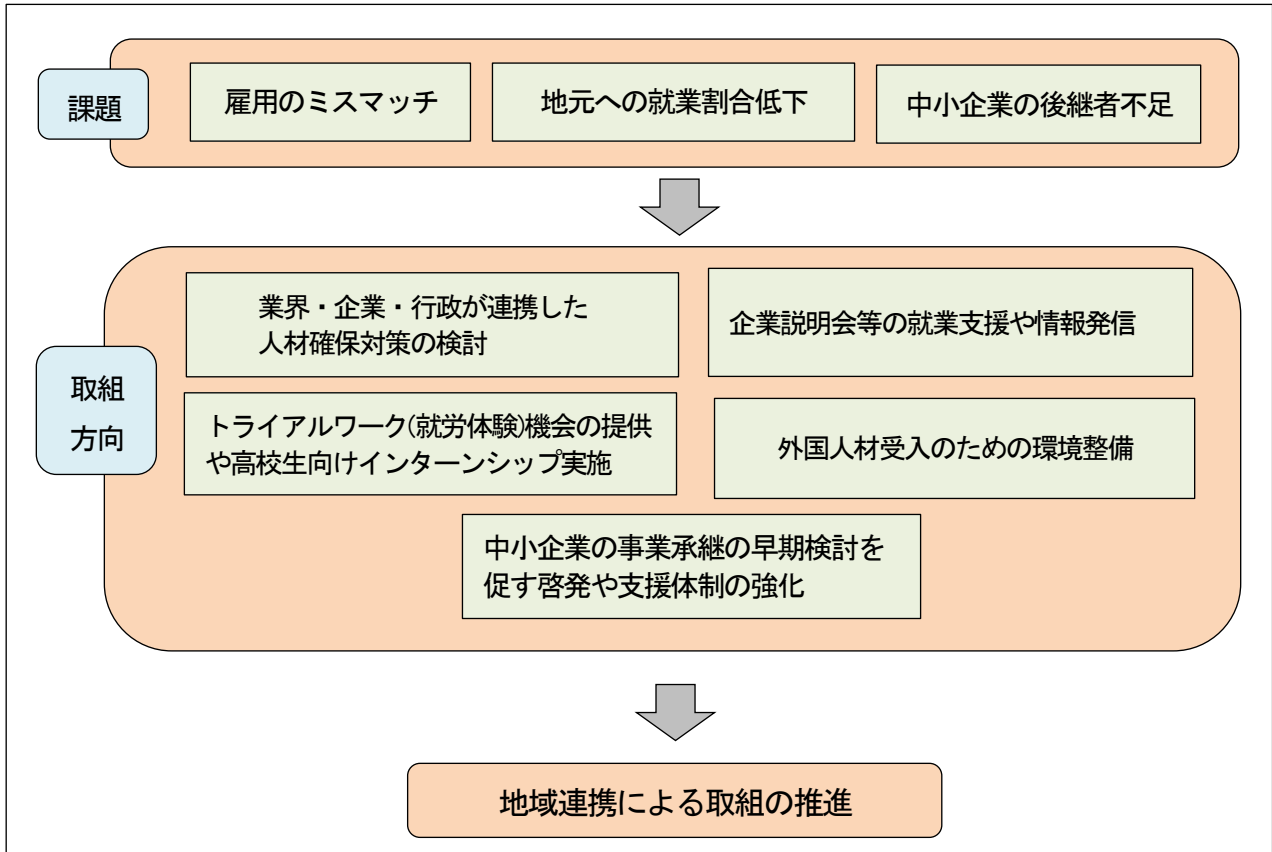
■ 農林業の担い手育成・確保に向けた取組の推進

- 新規就農者等を対象とした研修会の開催
- 高校生を対象とした農業研修や林業学習会の実施
- 「北海道立北の森づくり専門学院」と連携した地域の林業・木材産業を担う人材の育成・確保



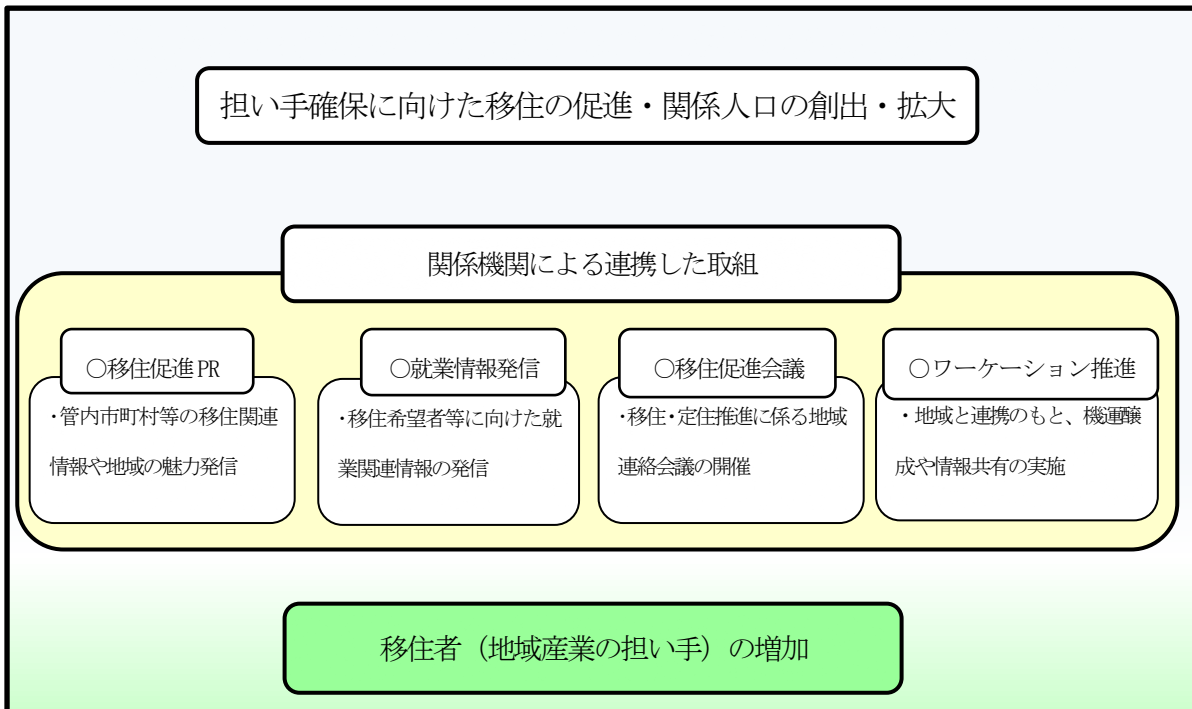
■ 地域連携による人材確保等の取組の推進

- 業界・企業・行政が連携した人材確保対策の検討
- 高校生の地域定着に向けた就業支援や情報発信
- 産学官金連携によるトライアルワーク事業の推進
- 外国人材受入のための環境整備
- 中小企業の円滑な事業承継の促進



■ 担い手確保に向けた移住の促進及び関係人口の創出・拡大

- 移住関連情報の発信や地域の魅力PR
- 移住希望者向け就業関連情報の発信
- 関係機関との連携による移住促進会議等の開催
- ワーケーションの推進など関係人口の創出・拡大



関連する主な基盤整備

- 公立学校施設の整備

上川地域の強みを活かした農林業振興プロジェクト

【推進エリア】上川地域

【主な実施主体】国、道、試験研究機関、大学、市町村、民間

目的

多種多様な農畜産物が生産される上川地域の農業においては、低コスト・省力化に向けた取組を進めるとともに、良食味米[※]をはじめとした高品質で安全・安心な農畜産物の生産を推進します。

また、全道で最も広い森林面積を擁する当地域においては、認証を取得した森林から産出される木材を、林業・木材産業関係者が連携しながら地域内で利用する取組を促進し、豊かな森林資源の循環利用を推進します。

こうした取組のほか、農林産物を利用した6次産業化[※]や農商工連携[※]による付加価値の向上に向けた取組を進めるとともに、幅広い世代への食農教育や農村ツーリズムの推進など、地域が有する豊かな資源を活かし、上川地域の基幹産業である農林業の持続的な発展を図ります。

施策展開

- 【施策】
- 農業生産の低コスト・省力化と農畜産物の高付加価値化等の推進
 - 適切な森林づくりと森林認証材の利用拡大の推進
 - 農商工連携による地場産品の高付加価値化や販路拡大

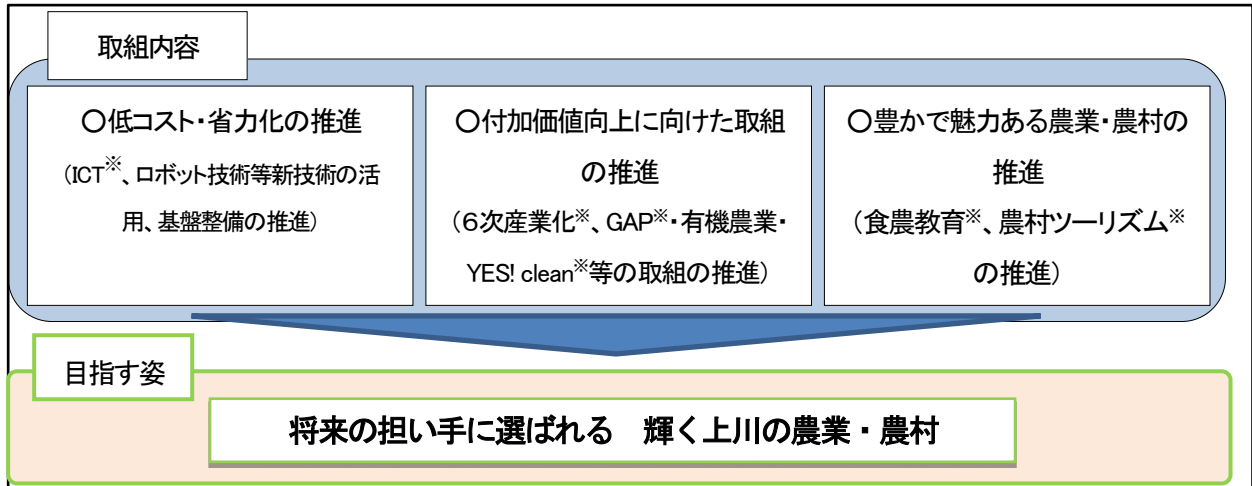
<プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）>

○省力化等による主要農作物作付面積の維持	79,857ha (R1)	→	79,000ha (R6)
○上川地域の木材・木製品出荷額	20,834 百万円 (H30)	→	23,760 百万円 (R6)
○食品工業の付加価値額	258 億円 (H30)	→	310 億円 (R6)

<施策毎の主な取組方向>

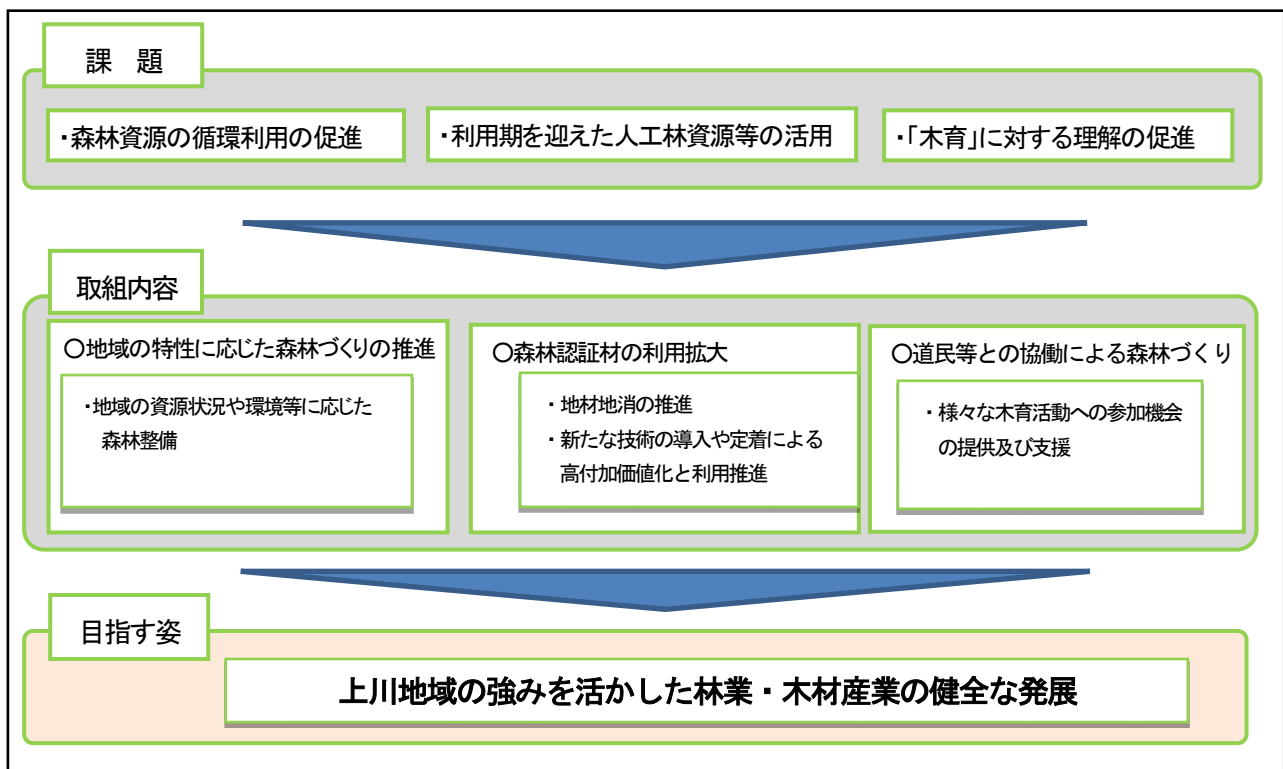
■ 農業生産の低コスト・省力化と農畜産物の高付加価値化等の推進

- 地域の実情に応じた低コスト・省力化の推進
- 付加価値向上に向けた取組の推進
- 豊かで魅力ある農業・農村の確立



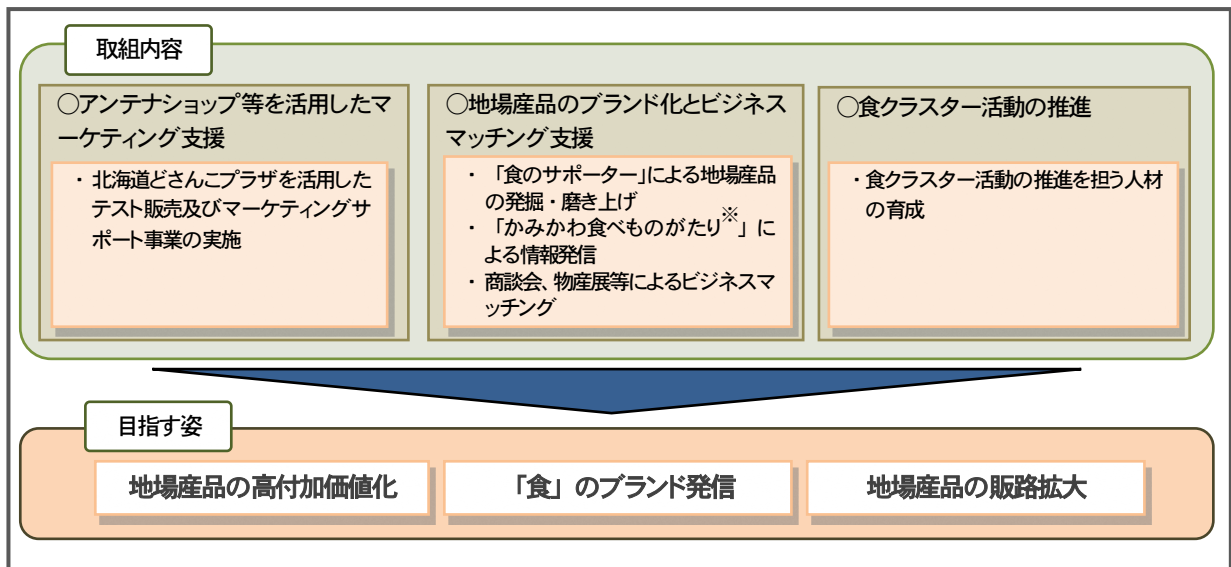
■ 適切な森林づくりと森林認証材の利用拡大の推進

- 地域の特性に応じた森林づくりの推進
- 地域の特色を活かした森林認証材の利用促進
- 道民や企業等との協働による森林づくり



■ 農商工連携による地場産品の高付加価値化や販路拡大

- アンテナショップ等を活用したマーケティング支援
- 地場産品のブランド化とビジネスマッチング支援
- 食クラスター[※]活動の推進



関連する主な基盤整備

- 農畜産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
 - ・農業生産基盤の整備推進
- 健全な森林の整備と保全の促進
 - ・森林及び路網の整備促進
 - ・山地災害を防ぐ治山施設の整備
- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
 - ・高規格道路[※]と一体となった道路の整備
 - ・空港、港湾などの物流拠点やICへのアクセス道路の整備
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
 - ・河道の連続性に配慮した砂防施設の整備
 - ・良好な水辺環境の保全・創出を推進

人と自然をつなぐ大雪山魅力発信プロジェクト

【推進エリア】上川地域

【主な実施主体】国、道、市町村、民間

目 的

上川地域は、全国から登山客が訪れる大雪山連峰等を擁しており、これまでも自然豊かな大雪山の魅力を発信するとともに、大雪山の恵みである清らかな水や豊富な農作物、素晴らしい景観などを活かし、地域のイメージアップに取り組んできたところです。

しかしながら、近年、中高年を中心とした登山ブームの中でのオーバーユース[※]による登山道の荒廃や山岳トイレ問題、さらにこれらに端を発する貴重な高山植物の減少などの問題が顕著となってきました。

このような状況を踏まえ、大雪山の貴重な自然を守り次世代に引き継ぐため、官民協働型の登山道管理を進めるための事業を展開するほか、観光地域づくりの根幹を担う民間団体や関係市町村とも連携しながら、まだ知られていない大雪山の観光資源などの魅力発信を進めます。

施策展開

- 【施策】 ■ 魅力的な自然環境の保全・活用
■ 大雪山の恵みを活かした地域の魅力発信

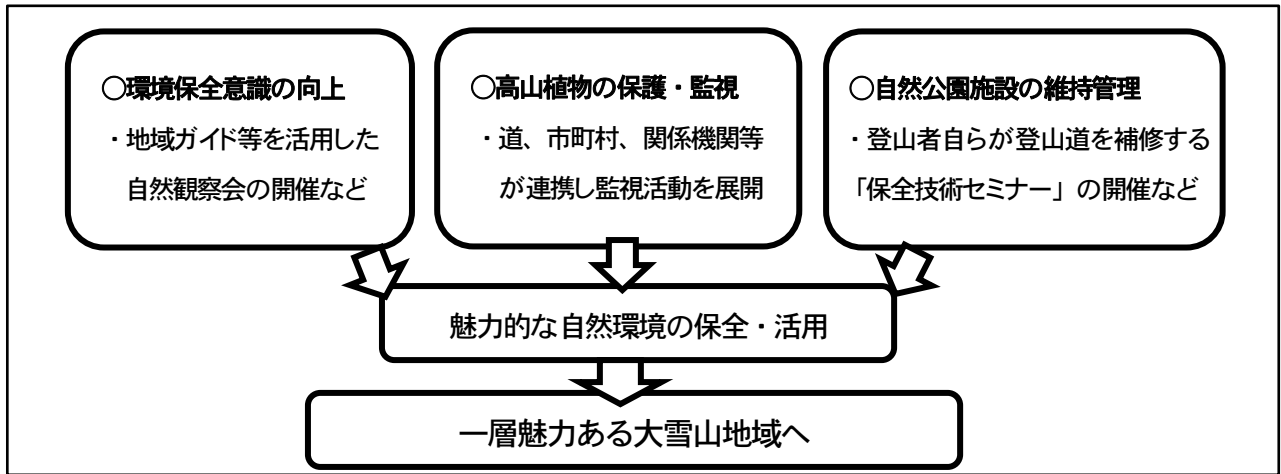
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

○登山道補修イベント参加人数	40人（H31）	→	70人（R6）
○観光入込客数	1,904万人（R1）	→	2,110万人（R7）

<施策毎の主な取組方向>

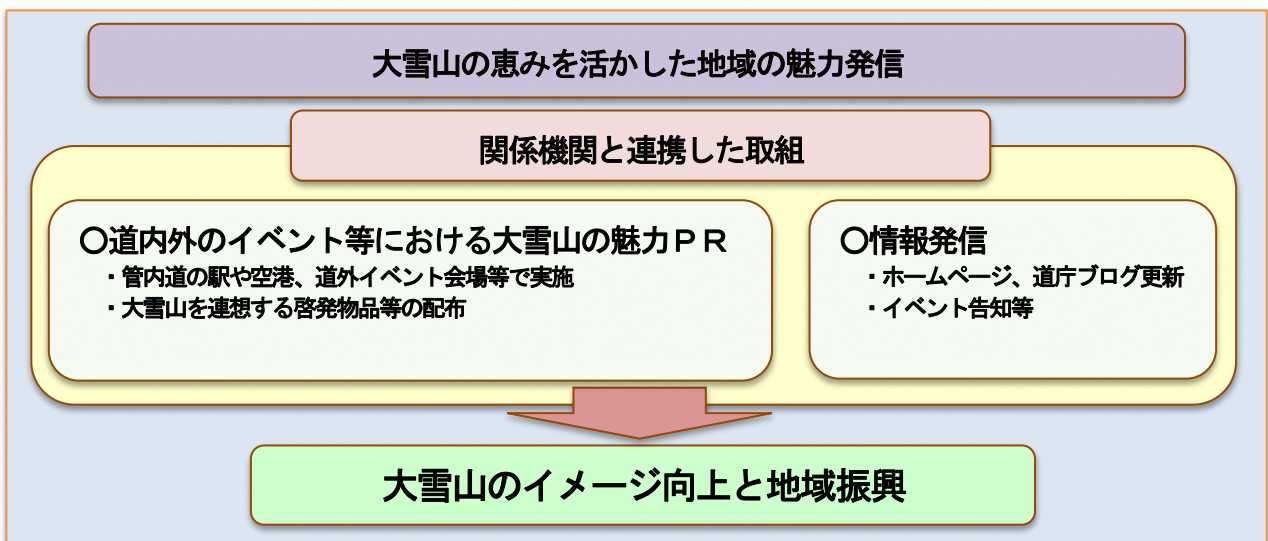
■ 魅力的な自然環境の保全・活用

- 高山植物保護のためのパトロール
- 官民協働型の自然公園施設維持管理



■ 大雪山の恵みを活かした地域の魅力発信

- 道内外のイベント等における大雪山の魅力PR
- 大雪山周辺地域のイメージアップ及び周遊促進に向けた情報発信



関連する主な基盤整備

- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
 - ・河道の連続性に配慮した砂防施設の整備
 - ・良好な水辺環境の保全・創出を推進
- 高規格道路の整備
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備